

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291300063		
法人名	有限会社 ライフスタイル東光		
事業所名	グループホーム亀嵩 蛍灯		
所在地	島根県仁多郡奥出雲町亀嵩443		
自己評価作成日	令和5年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&Ji_gyosyoCd=3291300063-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和2年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【利用者にとって】 事業所の暖かい雰囲気作り 家庭的な暮らし方の提案</p> <p>【職員にとって】 ・無理のない働き方の提案(体調や持病に合わせて調整) ・職員が無理をしても利用者に良い生活を送って頂こうと思わず、両者心地よく過ごせるような仕事の配分を心がけています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>落ち着いた古民家風の佇まいで、温かくぬくもりの感じられる平屋建てのグループホームです。 夏はホームの名前の由来にもなっている蛍も見られ、天気の良い日にはゆったりとベランダにある温泉の足湯を楽しむ事もできます。 コロナ禍ではありますが、利用者毎に得意な事や楽しみな事、希望を叶える事ができるよう応えておられています。 料理の得意な方、買物が楽しみな方には近くのコンビニから訪問販売に来て頂かれたり、かかりつけ医と相談され少量の飲酒をされる方、ドライブも感染予防に気を付けながら出掛けておられます。 食事は毎食手作りの物を提供され、誕生日にはリクエストメニューの提供も行われています。 自然豊かな住み慣れた地域で穏やかに楽しく毎日を過ごせて頂けるよう職員は努めておられます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成し、理念達成の為情報を共有し取り組んでいる。また月/1回のミーティングの際に理念について話し合いをしている。 ※コロナ蔓延時にはミーティング等、集団を作ることは控えている。	理念に沿った実践ができるように職員が振り返りの時間を持つことを大切にされています。コロナの状況を見ながらミーティングでの話し合いをされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において地域の方々との交流は出来ていない。現在年/1回の地域とんどさんに参加し地域交流としている。	現在はコロナ禍のため外出を控えておられるため、地域との交流は難しい現状ですが、毎年のとんどさんには参加され地域との交流が行われています。家族の方から野菜を頂かれる事もあります。	これからのWithコロナに向けて、昔参加された地域の行事の話などして頂き、今後外出の楽しい計画も話し始められると良いと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であり現状、事業所の力を活かした地域貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議を中止して感染予防に努めている。現在、開催月には本来話し合う予定であった内容の資料を参加予定者には配布している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されていますが、コロナ禍の中、書面開催とされており、資料を送付され意見を聞くようにしておられます。より多くの意見を頂き、運営に活かせるよう、対面での開催を検討されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	雲南広域連合介護保険課の担当者様と相談し、入居や指定の事について協力して頂いている。	雲南広域連合、奥出雲町役場や地域包括との連携も行われており、制度について確認され、協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置しており、チェックリストを作成し職員が自ら「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」をしない様、毎日チェックできるようにしています。	身体拘束委員会を設置されており、2ヶ月に1回開催されています。チェックリストを作られ、どのような事柄が身体拘束にあたるかの確認を行ったり、勉強会等で正しい理解に取り組んでおられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待を防ぐために声掛けから注意を払っている。同意を得る様、声掛けをしてから介助する様に指導している。	虐待防止委員の設置もあり、2ヶ月に1回開かれています。指針、議事録も保存されています。ミーティング時には接遇研修も行われています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は必ず説明を行い、同意を得ている。また分からない点が無かったか質問をするようにしている。また契約後においても不明点があればアフターフォローを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見を頂戴すれば月/1回開催のミーティングにおいてフィードバックし改善に向けて行動できるようにしている。	利用者からは毎日の会話から、意見・要望は伺われています。家族からは、通常は面会時、プラン見直し時には意見を伺われています。最近は県外におられる家族が増えたためコロナ対策もあり、電話での対応が中心になっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月/1回のミーティングを実施し、職員の意見、提案を聞けるような場を作っている。	コロナ禍のため、状況を見ながら、毎月のミーティングが行われています。その際には職員からの意見・要望を聞かれています。コロナ禍でも利用者の外出の希望が叶えられるようドライブの工夫についても話し合われました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職によって給与が上がる制度を作り、役職の選出基準を設けている。	どのようになれば給与が上がるかの説明も職員には行われ、周知されており、役職の選出基準が設けられています。資格手当も設けられています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の実施、現状できる限りの社外研修斡旋を行っている。	全職員に向け社内での【必須】研修が行われており、現在はオンラインを中心に外部研修が行なわれています。新人職員にはOJTが行われています。	今後もユニットリーダーの育成に力を注がれ、OJTの指導にも活かされるよう期待します。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人における他事業所と意見交換できるシステムは構築しているが、現状コロナ禍において実施は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント後も担当職員が情報収集やモニタリングが出来る様、システム作りをしている段階であり、まだ完全に担当者主体では行えていない。各ユニットリーダーが先導しながら本人様には想いを傾聴しケアに生かせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係関係作りの為、ケアプラン同意時に心配事がないか確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居介護サービスのため、他の介護保険は使用できないが、介護保険外のサービスが活用できないか家族と検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努力はしているが現在十分に出来ていない。家事など本人が出来る事はなるべくして頂くように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事故報告や問題提起など逐一連絡し、家族と共にお客様の生活を考える姿勢でいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援を不定期で行っているが、定期的には行えていない。なお冬季においては雪深い地域であるため外出が困難である。	ドライブを希望される方が多いので、コロナの感染状況を見ながら、出掛けるようにしております。冬季はかなり積雪が多いため安全面も考慮して外出が難しい地域です。	利用者が昔から住み慣れた地域に設置されているグループホームですので、昔話をされ、会話から馴染みの場所や人について伺い支援につなげる事に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく孤立する事の無いよう席の配置を決め、利用者同士の関係を作り事が難しい方に関しては、スタッフが会話をする等。工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様から問い合わせがあった場合は相談支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意志を尊重し、意思決定している。また生活歴を調べ現在の生活に活かしたり、継続することができないか検討している。	個々の利用者で状況が違うため、本人のやりたい事を引き出すことの難しさはありますが、できるだけ希望に沿えるよう、誕生日のリクエストメニューやコンビニから訪問してもらい買物の楽しみ、かかりつけ医と相談しながら少量の飲酒もされています。	やりたい事が本人の生きる目標につながるよう期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、サービスに繋がられる様配慮している。食堂経営をしていた方に食事作りをして頂いたり、農家の方に畑作りをして頂きながら馴染みのある生活が出来るような提案をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状の把握に努めている。またご家族様からも情報提供を随時して頂き、ケアに反映できる様に心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の際に話し合った内容をケアプランに反映させている。しかし、担当者会議で挙げた内容全てをプランに反映させることは出来ておらず、十分に現状に即した内容とはなっていない。	モニタリングは毎月行われており、担当からの話を聞き、計画作成担当者が中心にプランは作成されています。評価・見直しは6ヶ月に1回行われています。利用者、家族、医療関係者の意見も参考にし、反映されたプランになっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に出来事を記入し情報共有を図っている。	個別記録の振り返りを行ない、モニタリングの際には活用するよう心がけておられます。特記事項等については申し送り時に伝え情報共有が図られています。個人記録に記入され職員間の情報共有が図られています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	細々とした問題を利用者の要望や状況から読み取り、家族様に連絡し共に解決に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を活用して地域と交流を図っているが十分ではない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	千原医院と連絡を取り合い、適切な医療が提供できるよう支援している。また認知症の周辺症状が強く出ておられる方については永生クリニックのフォローを受けている。	かかりつけ医は以前か馴染みのある町内の協力医が本人・家族も希望され全員かかりつけ医とされており、定期的に往診にも来て頂けます。認知症の周辺症状がある方は町内の専門医の受診をされています。歯科受診は必要な方は都度受診支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力体制が取れる様、情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は先方の相談員と情報共有を行っている。	入退院時には、医療機関の地域連携室と連家を取り、ソーシャルワーカーと情報共有が行い早期退院に向けて連携されています。退院時には退院後の生活の注意点等アドバイスももらわれています。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の意向調査を行っている。現状終末期を迎えた方は、ご家族様と相談しながら医療機関、特養への移動を斡旋している。	契約時に利用者・家族に終末期の指針について説明され、同意を得ておられます。医療依存度が高くなり、寝たきり状態になられた場合の十分な対応が行えないため、現在は看取り対応は行われておらず、家族と相談の上医療機関や特養への移動を斡旋しておられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が訓練を受けている訳ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、心肺蘇生訓練を行っているが、地域との協力体制は十分ではない。 避難訓練年/2回実施 地域との合同練習などは現在出来ていない。	避難訓練は年2回実施されています。コロナ禍のため地域との合同練習は行われていませので、早く実施できる日が来るよう望んでおられます。食料の備蓄も用意があります。事業継続計画(BCP)は策定中です。	事業継続計画(BCP)来年度からの義務化に向け、早期の策定を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	比較的丁寧な声掛けや対応ができています。	入浴・排泄・食事はマニュアルに従い、プライバシーに配慮し行われています。声掛けの際も気を付けるようにしておられ、法人内の接遇研修に重点をおいたスマイルプロジェクトにも取り組まれています。	日頃から気をつけておられますが、コロナ禍で外部の目が入りにくい状況ですので、より職員間でも気を付けて頂きたいです。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいか確認を取って、ケアに反映させられるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて日々生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく以前から着ておられた服を持って来て頂ける様、家族に声掛けし支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、実施出来ている。利用者と一緒に食事作り、準備、片付けを行っている。	現在利用者の方の一番の楽しみは食事です。ヒヤリングをされながら、個々の希望を取り入れた献立を作成されています。食事は毎食手作りされており、誕生日や行事食のメニューも提供されています。出来る利用者には役割を持って頂き、出来るお手伝いして頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を把握し確保が出来る様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている、しかし本人の希望や拒否が強い方に関しては意思を尊重し、毎回行ってはしない。	毎食後に歯磨き、うがい等それぞれの状況に応じた支援が行われています。義歯は就寝時に洗浄液に入れ清潔保持が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態に合わせて排泄の環境を整えており、場合によっては見守り、介助を行っている。	排泄チェック表を基に個々の排泄パターンを把握され、声掛け、誘導、介助等、必要な支援が行われています。夜間は必要な方には定期的な声掛けを行ってられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防に対する取り組みは十分に行えていないが、便秘時は長引かない様、主治医に定期薬の検討や下剤の処方を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中に入浴時間を定めているが、本人の意志を尊重しなるべく入りたい時間に入浴している。	基本は週2回の入浴回数、午後からの入浴や寝る前に入浴を希望される方への対応も行われています。同性介助の希望にも対応されています。入浴拒否の方もありますが、工夫をしながら入って頂かれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に本人様にお任せしているが、昼夜逆転傾向の方は日中なるべく活動的に生活いただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	みなり薬局と連携し、居宅療養管理指導を受けており薬剤師から説明を受けている。また処方内容の変更時は状況変化に注意して見守りを行っている。	看護師が薬局と密に連絡を取られ、管理されており、服薬の変更があれば直接看護師が取りに行かれ、職員へも周知され、服薬後の変化がないか様子を観察され何かあれば医師へ速やかに連絡をされ指示を仰がれています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての利用者には行えていないが生活歴を掘り下げた支援を行い、楽しい毎日を過ごして頂ける様、配慮をしている。 例)掃除、縫物、手芸、園芸、塗り絵、点つなぎ等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に合わせて出かけられる様、配慮しているが冬季などは雪があるため外出が出来ていない。	朝夕はまだ冷え込む日もありますが、そろそろ温かくなってきたので、お花見の計画もたてられる予定です。すぐ近くの酒蔵のある道の駅に出かけられたり、ホームの周りにも桜がたくさん咲くので利用者も楽しみにしておられます。日常的にもホーム周辺の散歩を楽しまれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は現金を自身で所持しておられる。毎週火曜日近所の加藤商店が訪問販売に来られ、その際に買い物を楽しんでおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については行っているが手紙については現状、対象の方がおられない。年賀状を自身の手で家族に書いてもらうという取り組みを行った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって時期の行事飾りや植物、花を飾るようにしている。	季節感が感じられる様な貼り絵の作品を作られたり、書道が得意な方の作品が飾られています。空調も完備されており、空気清浄機も各所に設置されています。利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべく楽しく過ごして頂ける様、ソファや椅子を配置して思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に使い馴染みのある家具や食器を持って来て頂ける様、配慮している。	家族写真や馴染みのある服を持って来られています。本人の動きやすいよう入所時には、自宅のベットと差異がないよう配置され、その後動線を確認されながら移動が必要な方は本人の動きやすいようベットの位置を変えられて、居心地良く過ごして頂けるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なんでも介助や手を出しすぎない様、配慮している。		